施策体系

基本方針	6	産業の健幸	施策名	25	企業誘致の促進と働く場の確保

施策統括部	産業振興部	関係課	企画課、生涯学習課、商工振興課、水道課
施策主管課	商工振興課		

１　施策の評価指標

	成果指標	単位
A	新規企業立地数（年間）	件
B	クリエイター塾生のクリエイターとしての就業・創業者数	人
C		
D		

２　指標等の推移

成果指標		R4年度実績値	数値区分	６年度	７年度	８年度	９年度	評価	背景として考えられること
A	件	1	目標値	1	1	1	1	△	新たな企業誘致の受け皿として整備した市営東部工業団地（２区画）の分譲公募を実施したが、隣接立地企業が内定となり、新規立地としては計上していません。今後も県のくまもとサイエンスパーク構想に基づき新規企業立地数は増加するものと考えます。
			実績値	1	0				
B	人	6	目標値	7	7	8	8	○	「市民クリエイター育成」を目的とした「クリエイター塾」を受講し、映像制作技術を学んだ市民が年々増加していますが、既に仕事をしている人が自身のスキルアップのために受講したり、趣味として受講する人も増えているため、就業・創業につながりにくいことが考えられます。
			実績値	7	10				
C			目標値						
			実績値						
D			目標値						
			実績値						

※【評価】　○；目標達成　△；目標をほぼ達成（－5%）　×；目標を未達成

事務事業数・コスト				６年度	７年度	８年度	９年度
事務事業数			本数	15	14		
事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0		
		都道府県支出金	千円	492	0		
		地方債	千円	891,600	202,461		
		繰入金	千円	14,010	0		
		その他	千円	42,767	88,842		
		一般財源	千円	67,073	100,506		
	事業費計		千円	1,015,942	391,809		

３　施策の現状・住民意見等

①施策の現状（第１期基本計画策定当初）と今後の状況変化

●市営東部工業団地の分譲内定や県のくまもとサイエンスパーク構想に基づく民間事業者の「イノベーション創発エリア」の整備、既存立地企業の事業拡張などセミコンテクノパーク一帯の産業集積がさらに加速することから、周辺一帯の社会インフラの整備など市民や勤労者が安心して働ける環境づくりに努めます。
●県のくまもとサイエンスパーク構想で目指す「産学連携による共同研究」というテーマを生かし、半導体技術を活用したスマート農業の実装など分散型として御代志地区における事業の推進に向け、県と合志市で検討を進めます。
●県営工業団地整備計画は、令和４年５月に熊本県が合志市と菊池市の２カ所を選定。本市における整備については「検討中」としており、市としては整備に向けて引き続き熊本県に要請します。

②この施策に対して住民（対象者、納税者、関係者）、議会からどんな意見や要望が寄せられているか？

（令和７年度（令和6年度振り返り）の施策評価における議会意見）
●「くまもとサイエンスパーク推進ビジョン」により見込まれる更なる半導体関連会社の誘致に取り組むとともに、県営工業団地の整備を早期に決定するよう県に強く働きかけること。
●県サイエンスパークの誘致及びパークマネジメント法人が本市で法人登記するよう働きかけること。
●産業分野や職種の偏りによって生じるリスクヘッジについて検討すること。

（令和７年度（令和6年度振り返り）の施策評価における総合政策審議会意見）
●農家と加工業者のマッチングにより雇用の創出を図ること。
●農地の保全と企業誘致の調和を図ること。

４　施策の評価

①施策の振り返り（経営方針の達成度等）

令和７年度経営方針からの振り返りは以下のとおりです。
①【ハローワーク、ポリテクセンター、熊本高専等との連携や熊本連携中枢都市圏、菊池地域企業誘致プロジェクト協議会による広域の企業紹介等により、多種多様な人材を確保する取り組みを進めるとともに、女性・シニアの就労支援、企業誘致による雇用促進と労働環境の整備に努めます。】については、ハローワークと市が連携し、菊池管内の半導体企業と求職者を繋ぐ「半導体業界就職フェア」の開催やくまもと半導体グリーンイノベーション協議会（KSGI）設立に伴い、本市も協議会に参画し「人材育成部会」において学生に対する半導体への理解を深める今後の取り組みを連携し協議しました。また、防犯灯や区画線の設置工事など労働環境の整備に努めました。

②【半導体産業の集積のみならず、関連企業を含めた市内への企業誘致を図ります。】については、新たな企業誘致の受け皿整備のため、市営東部工業団地の造成工事が完了しました。また、官民連携の開発にかかる企業進出については、「市半導体産業等競争力強化推進本部関連企業支援部会」を中心として、企業誘致に向けて環境整備など全庁横断的に企業誘致に取り組みました。

②施策の課題

●県のくまもとサイエンスパーク構想に基づき整備されるイノベーション創発エリアは、民間事業者と県がパークマネジメント法人やイノベーションセンターを開設予定であり、産学官連携や企業間交流の中核的な役割を担うものと考えており、市としても、こうした機能と連携しながら、市内企業や教育機関、研究機関との橋渡し役を担い、地元雇用と地元企業の参画促進や人材育成、共同研究の機会創出などに取り組みます。また、本事業の取り組みを市民等に理解を得るため広く周知する必要があります。
●半導体産業の集積が更に進む中で、特にセミコンテクノパーク周辺の渋滞緩和に向けたハード及びソフトの両面における対策を立地企業と県市町とで積極的に取り組む必要があります。

５　施策の令和７年度結果に対する審査結果

①政策推進本部での指摘事項（令和８年7月13日まとめ）

●「市半導体産業等競争力強化推進本部関連企業支援部会」を中心に、セミコンテクノパーク周辺など企業の立地に伴う道路整備や上下水道などの環境整備に全庁横断的に取り組むこと。
●熊本県が推進する「分散型サイエンスパーク」の中核拠点となるイノベーション創発エリアで目指す「産官学連携拠点」のテーマを生かす取り組みと分散型の拠点となる「御代志地区」における地域活性化策の検討を行うこと。
●地元雇用を促進するため、市内企業の魅力を積極的に発信するとともに、若者・女性・シニアの就労支援とマッチングに取り組むこと。

②総合政策審議会での指摘事項（令和8年8月31日のまとめ）

●若者・子どもの意見を反映しつつ、地元就業の促進と人材育成の拡大を行うこと。
●サイエンスパーク構想の情報発信強化を行うこと。

③議会の行政評価における指摘事項（令和8年9月1日）

●今後は、企業立地そのものを成果とするだけでなく、市内企業との取引や連携、地元雇用、人材育成など、地域経済への波及効果につなげることが重要である。特に、くまもとサイエンスパーク構想によるイノベーション創発エリアについては、市内企業や教育・研究機関との連携を図り、地元企業の参画、人材育成、共同研究、新たな産業や事業の創出につながる取組を進めること。
●若者、女性、シニアなど多様な人材と市内企業とのマッチングを強化し、企業誘致によって生まれる雇用を市民の働く機会へ着実につなげるとともに、産業や職種の多様性にも配慮し、持続可能な地域産業の形成につなげること。
●将来の半導体関連産業の発展を想定すれば工業用地は完全に不足するため、県工業団地２５ha以上の場所を早期に決定し、整備することを県に強く要求すること。
●県サイエンスパークの誘致とパークマネジメント法人やソニーとTSMCの合弁会社の本市への法人登記の実現に努めること。

６　次年度に向けた取り組み方針

○政策推進本部　令和９年度合志市経営方針（令和8年10月15日）

①県や関係機関との連携のもと、「くまもとサイエンスパーク推進ビジョン」に基づき、企業立地を支える都市基盤の整備を計画的に進めます。整備にあたっては、BCP（業務継続計画）の観点も踏まえた安全・安心なインフラ構築を図るとともに、産学官連携や企業間交流の促進など、イノベーション創出を支える環境整備を推進します。また、創業支援と合わせて、これまでにない革新的なアイデアや技術（イノベーション）を用いて、短期間で成長を目指す企業への支援にも取り組みます。
②セミコンテクノパーク周辺の渋滞緩和に向け、周辺交差点・進入路の道路改良工事を実施し、交通流動の円滑化と安全性の向上を図ります。
③地元雇用の促進及び定着を図るため市内企業との情報共有や連携を密にします。若者・女性・シニア等多様な人材がそれぞれのライフスタイルに合わせて働くことができるよう、企業とのマッチング体制を強化・充実させ、市内での就業機会の拡大を図ります。